

## ギャンブル等依存症セミナー 第2部 質疑応答（要旨）

### （質問1）

ギャンブル依存症という恐ろしく、とても対処しようのない症状について、IR推進局職員は依存症対策を進めるにあたり、夢洲を最先端の依存症予防対策を研究・開発をする実証の場にすると言っていたが、まるで社会的な実験のように感じられ、怖さでいっぱいである。実証の場ではなく、危険な実験や、何か我々が実験材料になりそうで、やめてほしいという気持ちがある。

### （回答：籠本講師）

IR推進局職員の説明を聞けば、そのように思われるかもしれないが、これは、様々な技術を駆使してデータを集め、依存症患者特有の行動特性を分析していくということであり、しっかり研究し、実際に有効なアプローチ手法を探り、依存症対策に取組みたいということである。実験材料にするということではないが、実証という言葉を使うと皆様の中ではそのように思われることがあるかもしれない。貴重なご意見ありがとうございます。

### （回答：職員）

貴重なご意見ありがとうございます。我々もそのような意図はなく、本人の同意等、課題はあるが、依存症対策の研究につなげられることを考えていきたいと思っている。

### （質問2）

依存症になる方の特徴として、本音を言えない、孤独で寂しいという先生の話が、とても印象に残った。

例えば、ギャンブルを例に挙げると、依存症になる方は同じように孤独感がある、人に言えないから寂しいという方がいるが、一方で、ギャンブルにはまらない方もいると思う。はまる人とはまらない人の違いをどのように考えているのか。

### （回答：籠本講師）

なぜ覚醒剤に、アルコールに、ギャンブルに向かってしまうのか、ということは本当にわからない。これは決め手にはならないが、依存症者自身の周りに依存症に近い方がいる場合は原因として一番関係があると思うが、そういう方が周りに居ても依存症にならない方はならない。なぜそれを選択し、のめり込んでしまうのかということとはわからない。

### （質問3）

ギャンブルにはまると依存症になってしまうことを、もう少し周知する必要があると思う。そのような啓蒙や、今はまだはまっていない方に情報をいかに伝えていくかというこ

## ギャンブル等依存症セミナー 第2部 質疑応答（要旨）

とについて、どのように考えているのか。

（回答：籠本講師）

現在検討している。我々のようなギャンブル依存症になっていない者が依存症について注意喚起を促しても子どもは聞かない。学校の先生から話してもおそらく聞かず、本当に難しい。

本当に有効な手段は、例えば当事者の方や回復者の方が学校に行き、時間をいただけるなら体験談を話してもらい、注意喚起していただくことが一番良いと思っている。

今回、IR推進法において、既存の依存症も含め、様々な依存症対策について国や大阪府市が取組むとのことである。行政機関として、教育機関や当事者の団体の方等と協議していただき、教育機関等、様々な場で当事者、回復者の方から話をしてもらえたら一番良いと思っている。